

# 分野横断的に議論を進める際の視点について(案)

資料4-1

分野別ヒアリングを踏まえた総括的議論での主な意見	課題及び対応策の整理の仕方(例)
<p>○ 分野別の課題・取組等を分野横断的に整理することが必要。例えば、人口減少と施設メンテナンスは一緒に考えるべき。また、学校など単体のものと、道路などネットワークのものとの違い、その中での違いも議論すべき。まちづくり分野と公共交通分野、医療分野と教育分野など、いくつかの政策パッケージごとに整理すると良いのではないか。</p>	<p>→ インフラや公共施設等の「まちづくり」に関する諸課題に対し、分野横断的に対応策を検討することが考えられるのではないか。</p>
<p>○ 年齢や居住地域など、多様なライフコースに応じた2040年までの動きを見通してはどうか。</p> <p>○ 人生100年時代における住民の多様性(性別や年齢、ライフスタイル等)に対応できるような地方行政体制を考える必要がある一方、全ての自治体が多様な住民に対応できるわけではない。政治経済の状況や地理的な環境など、地方の構造を分析して類型化した上で、自治体の多様性を前提とした多様な住民への対応や制度上のネックについて考える必要がある。</p>	<p>→ 諸課題は、人口構造の変化に伴い、世代別(高齢者世代、現役世代、若年世代)に顕在化するものもあれば、全世代に共通するものもあり、「ひと」に着目して分野横断的に課題・対応策を検討することが考えられるのではないか。</p> <p>また、高齢者人口や生産年齢人口の増減などの人口構造の変化の現れ方は、自治体の特性によって異なることから、人口構造の変化が類似した自治体をいくつかの類型に分けて課題・対応策を検討することも考えられるのではないか。</p>
<p>○ AIやICTについては、技術革新のスピードに留意するとともに、最新の情報を得た上で、活用する場面ごとに具体的に考える必要。</p>	<p>→ 技術革新の実現するペースや内容は不確実ではあるが、諸課題に対し、「技術」でどこまで対応できるか、分野横断的に検討することが考えられるのではないか。</p>



- これまでの議論を踏まえると、分野別ヒアリングで抽出された政策分野ごとの「2040年にかけての変化・課題」及び「2040年にかけて求められる視点」について、分野横断的な観点から、以下の3つに整理し、検討することが考えられるのではないか。
  - ① まちづくり(人口構造の変化に合わせたインフラ・公共施設の総量や配置、老朽化対応)
  - ② ひと(高齢者世代・現役世代・若年世代それぞれの状況、全世代に共通する状況、人口構造の変化の地域差)
  - ③ 技術(Society5.0時代の新たな技術の活用)
- 分野横断的に諸課題や対応策を検討する際に、人口減少が深刻化し高齢者人口がピークを迎える2040年頃に望まれる社会像について、議論することも考えられるのではないか。